

事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

財団が管理する森林に関わる阿寒川水系における降雨量、河川の水位、河川水の土砂濃度等を調査した。なお、平成27年度より調査地点「チュウレイ川」（マリモの生息地に注ぎ込む河川）を1箇所追加し、これまでの調査地である「チクショベツ川」、「キネタンベツ川」も含めた全3箇所での調査を実施した。

事業費 1,937,096円(予算額1,900,000円)

(調査：山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日程 平成27年 6月11日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

平成27年 6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

河川・海洋・森林に至るまで様々なフィールドでの自然環境の悪化が叫ばれている現代社会において、アイヌ民族の持つ世界観（文化）は、自然現象、動物、植物などの人間生活に関わるすべての事象や「もの」に神の存在を認め、崇める姿勢であり、これからの私達の自然との付き合い方の大きなヒントとするため、自然環境（樹木・山野草等）についてアイヌ文化の視点から触れ合う他、興味深いアイヌ文化・風習の一つである野草から「魔除けの首飾り」を制作する「イランカラプテ～そっと触れてみよう阿寒の森とアイヌ文化に～in 阿寒湖」を開催した。

事業費

355,625円（予算額 510,000円）

事業概要

日時 平成27年7月25日（土）

森林散策（第一部） 9時30分～12時00分

魔除制作（第二部） 12時30分～13時50分

講演（第三部） 14時00分～14時50分

会場 森林散策（第一部） 湖北の森（財団管理森林内／阿寒湖北側森林）ほか

魔除制作（第二部） 阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ

講演（第三部） 阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ

参加者 37名

講師 本田 優子氏（札幌大学副学長／アイヌ文化）

村木 美幸氏（一般財団法人アイヌ民族博物館専務理事）

高嶋八千代氏（植物研究家）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費

1, 000, 000円（予算額 1, 000, 000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

(ア) ネイチャーウォッチング

阿寒湖にも生息しているニホンザリガニは、北海道と東北地方の北部の河川や湖に分布する絶滅が危惧されている日本固有種のザリガニであるが、1970年代に特定外来生物のウチダザリガニの侵入、定着が確認されて以降は、阿寒湖並びにその流出入河川に生息地を広げ、在来種であるニホンザリガニは、その生息地の縮小、生息数の減少が懸念されている。

在来生物（ニホンザリガニ）と特定外来生物（ウチダザリガニ）との軋轢並びに、その取り巻く環境を学び、感じる実体験型自然観察会「阿寒湖のニホンザリガニをウチダザリガニから守ろう！／ザリガニウォッチング」を開催した。

事業費

212, 052円（予算額 423, 000円）

事業概要

日 時	平成27年10月24日（土）午前10時00分～午後2時00分
室内講義	阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ
現地観察	光の森（財団管理森林内／阿寒湖南側森林）ほか
参加者	29名（釧路市全域公募の小学3年生～小学6年生ほか）
講師	照井 滋晴 氏（NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG-代表）

（イ）自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育協同プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に自然体験プログラム（延べ13回、参加者402名）並びに、津別町教育委員会生涯学習事業「アソビバつべつ！！」と連携した野生生物（エゾサンショウウオ、アメマス、エゾシカ）についてのプログラムを（延べ3回、参加者26名）実施した。

事業費 197,071円（予算額 342,000円）

2）前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する調査研究等の諸活動に対して助成を行った。また、札幌市において、平成26年度の助成対象者の事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で開催した。

事業費 5,550,811円（予算額 6,146,000円）

事業概要

平成27年度被助成者

①旭川帰化植物研究会

助成内容：「旭川の帰化植物」40周年記念号刊行、助成額：100千円（旭川市）

②平井克哉

助成内容：キノコの凍結乾燥樹脂含浸標本の作製、助成額：300千円（恵庭市）

③真駒内川水辺の楽校

助成内容：“川であそぼう！2015”、助成額：400千円（札幌市）

④岩見沢子ども環境保全づくり協議会

助成内容：いわみざわふるさと少年少女保全活動、助成額：350千円（岩見沢市）

⑤尻別川の未来を考えるオビラメの会

助成内容：ニセコ・有島記念公園「尻別イトウポンド」建設事業、助成額：600千円（ニセコ町）

⑥NPO法人 新山川草木を育てる集い

助成内容：「当別22世紀の森」づくり「記念誌」の作成、助成額：700千円（札幌市）

⑦北海道野生植物研究所

助成内容：北海道帰化植物便覧－2015年版－の出版、助成額：700千円（千歳市）

⑧NPO法人 苫東環境コモンズ

助成内容：勇払原野における自生ハスカップの今昔を可視化する

～分布調査および採取の記憶ヒアリング～、助成額： 3 7 0 千円（苫小牧市）

⑨奈良泰世

助成内容：「阿寒湖周辺のきのこたち」ガイドブック出版、助成額： 6 0 0 千円（釧路市）

⑩NPO法人 日本野鳥の会十勝支部

助成内容：十勝沖における市民参加型海鳥・海獣類調査と人材育成、助成額： 5 0 0 千円（帯広市）

※ 助成総額 4, 6 2 0, 0 0 0 円

審査経過

平成 2 7 年 1 月 1 6 日 募集広報

平成 2 7 年 4 月 2 0 日 審査委員会開催（応募件数：道内外からの団体・個人より計 2 6 件）

審査委員

松江 昭夫 氏（委員長）

鮫島 惇一郎氏（自然環境研究室主宰）

阿部 永 氏（元北海道大学農学部教授）

徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

白鳥 浩二 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

3) 森林利活用推進事業

財団創立 3 0 周年を契機に、平成 2 6 年度より本格的に取り組みを開始した「森の学校」事業（※注 1）では、アウ

トドア環境教育（※注２）に関し、釧路市教育委員会と共催で釧路市内の教員・教育大学生を対象とした研修事業を行うとともに、地元マリモ幼稚園・阿寒湖小学校・阿寒湖中学校教員を対象とした研修、「一步園森の案内人」（ガイド）の養成等を実施し、森林のさらなる活用に努めた。

平成２７年度については「教育の森」に重点を置き、アウトドア環境教育の指導者の養成事業を充実させるとともに、「健康・レクリエーションの森」ではガイド養成事業を実施した。また、「研究の森」においても、大学等と具体的な実施に向けた検討を進めた結果、東京農業大学生物産業学部と前田一步園財団との間で研究・教育に関する連携協定を締結することが第１０回理事会（平成２８年２月２５日（木）開催）にて承認された。

平成２７年度は、「森の学校」事業として次の内容を実施した。

「教育の森」

- ・指導者養成

地元幼小中学校教員への研修等

（平成２７年８月３日（月）・４日（日）、参加人数２３名（３日）・２７名（４日））

釧路市教育委員会への研修事業提供

（平成２７年８月５日（水）、参加人数８名）

「レクリエーション・健康の森」

- ・「一步園森の案内人」（ガイド）の養成

（平成２７年１１月１８日（水）・２７日（金）、参加人数１３名）

「研究の森」

- ・「研究の森」事業の周知活動を東京農業大学生物産業学部に対し実施
- ・連携協定書の検討、前田一步園財団第１０回理事会における承認

また、事業を円滑に実施するために有識者から構成される推進委員会を開催し、実施結果の振り返り、次年度に向けた事業内容の検討等を実施した。

(※注1) 「森の学校」事業は、①「教育の森」(森林を教育的に活用する事業)、②「レクリエーション・健康の森」(森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業)、③「研究の森」(森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業)の3事業で構成する事業である。

(※注2) アウトドア環境教育とは自然を学びの場として、従来の環境教育における自然科学に加え国語や算数、外国語等、多様な教科に自然を活用するものである。

事業費

3, 204, 161円(予算額 4, 500, 000円)

(4) 顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞及び副賞を贈呈するとともに、未来を担う子供(小中学生)たちの自然環境の保全活動への取組みの励みとなるよう一步園ジュニア自然環境賞及び活動資金を贈呈した。

事業費

1, 908, 523円(予算額 2, 216, 000円)

事業概要

前田一步園賞顕彰者

・高岡 潤氏(北見市) 北見市教育委員会推薦

業績: 北見市で中学校の美術・生物の教鞭をとる中で自然環境の保全やその重要性を感じとる力は「自

然の巧みさ、美しさを感じる心を育むことから」との信念を持ち、公教育において不可欠な地方独自の自然に合わせたユニークな視点からの理科資料集や副読本の監修に携わる。また、野草を通じた食文化や自然を美術的感性からアプローチする生態系全体を視野に入れた自然観察会や展示教育に取り組むなど地域の多くの児童生徒、市民の人材育成にも寄与。

・高橋 慎氏（栗山町） 栗山町教育委員会推薦

業績：栗山町御大師山にて国蝶オオムラサキを発見して以来、永きにわたり「基本姿勢→ふるさと栗山愛」・「活動手法→連携、協働でつなぐ」との姿勢を貫き、「エゾエノキ里親制度」の創設など、同町のシンボルとしてのオオムラサキとその生息環境の保全にユニークかつ効果的な手法で取り組む傍ら、地域に根ざした動植物観察や調査研究を積み重ね、自然環境を次代に繋げる活動にも尽力。

一歩園ジュニア自然環境賞

・ながぬま緑の少年団（長沼町） 北海道空知総合振興局推薦

活動：育成母体である「河川愛護団体リバーネット21ながぬま」の指導と協働のもと、長沼町の河川並びにそれらの河畔をメインフィールドに、地元の自生樹から種を採り、育苗し、河畔に生態学的混播法による植樹「小鳥のさえずりが聞こえる河畔林づくり植樹祭」を地道に実施する傍ら、馬追運河の清掃活動等にも取り組む。

・東川町大雪山愛護少年団（東川町） 東川町大雪山国立公園保護協会推薦

「郷土の山は私たちの手で護ろう」と地元中学生を対象として結成された同少年団は、大雪山連峰、とり

わけ旭岳をメインフィールドとして、普段の生活では触れることが出来ない山岳環境の中で、野生動植物などの解説を受けながら自然観察する傍ら、同少年団が永年にわたり継続的に実施してきた旭岳温泉自然探勝路などの清掃にも取り組む。

審査経過

平成27年 5月 7日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

平成27年 9月 3日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞11件、一步園ジュニア自然環境賞2件）

平成27年11月 1日 表彰式（出席者：42名、当財団役職員含む。会場：ホテルポールスター札幌）

審査委員

松江 昭夫 氏（委員長）

鮫島 惇一郎氏（自然環境研究室主宰）

阿部 永 氏（元北海道大学農学部教授）

徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

白鳥 浩二 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

（5）地域保全事業

1）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要

な用具に対して助成を行った。

事業費（助成） 300,000円（予算額 300,000円）

（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） 800,000円（予算額 800,000円）

（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

（6）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 600,000円（予算額 900,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成27年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 1,923,000円（予算額 1,940,000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成26年度のエゾシカによる道内農林業被害額は46億1,000万円（前年度比9億5,000万円減）とピークであった平成23年度における64億円の被害より年々減少している。また、道内のエゾシカ推定生息数も平成22年度の63万頭をピークに年々減少し、平成26年度は48万頭（前年度比6万頭の減）と推定される（北海道公表資料より）。

全道的にみると、被害額・推定生息数ともに低下しているが、釧路総合振興局管内の農林業被害額をみると、平成2

6年度被害額は13億8300万円（前年度比300万円減）と依然深刻な状況が続いている（北海道公表資料より）。

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、依然として楽観視はできない状況である。

平成27年度も、前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった森林被害防止対策を継続して実施した。なお、平成27年度の森林被害防止対策の内、囲いワナの設置（2基）及び囲いワナ内の誘引を目的とした給餌（194個）に関しては、補助金（平成27年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い同補助金を活用し実施した。また、捕獲したエゾシカの内、冬期（平成28年2月～3月）に捕獲した頭数（104頭）分については、平成27年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を活用した。

平成27年度の事業量は、平成26年度設置の囲いワナ3基撤去、平成27年度囲いワナ2基（エゾシカの出没状況を考慮し、当初計画より1基減の2基設置とした）の設置、ビートパルプ給餌1,199個（71,940kg、補助金活用194個を含む）および、囲いワナ（2基）による捕獲112頭（平成27年4月8頭、平成28年2月～3月104頭）である。

また、これらの対策とあわせてエゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて大学と連携して調査を実施した。

事業費 9,627,593円（予算額10,310,000円）

（請負等先：（有）前田一步園林業）

事業概要

囲いワナ撤去事業

平成26年度に設置した3箇所の囲いワナの撤去

給餌事業

給餌場25箇所の給餌

餌の使用量 ビートパルプ 1, 199個 (1個 60kg、給餌総量 71,940kg)

罝いワナ2箇所での捕獲

捕獲回数 17回

捕獲頭數 1 1 2頭

既設の林道・作業道の補修・改良（林道わき笹刈り、林道ゲート設置1箇所、林道ゲート補修1箇所、破損土管入れ替え1箇所、破損土管簡易橋梁化1箇所、砂利敷2路線、林道倒木整理）を実施した。

事業費 2,517,000円(予算額500,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業)

林分構成の整備を図るため、現況調査を平成２８年度間伐実施予定区域である３０８３、３０８８、３０８９、３０９０林班の天然生林（調査対象面積７４ha）にて行った。調査の結果、平成２８年度の間伐材出材量を１，４００ｍ³（内訳については表２－１に掲載）と計画した。

また、人工林の資源量調査（平成２６年度から２８年度までの３カ年計画）を３０８０、３０８３林班の人工林（調査対象面積３４ｈａ）にて行った。

事業費

956,000円（予算額 2,280,000円）

（請負等先：（有）前田一步園林業）

（表2－1） 平成28年度間伐材出材計画内訳

間伐の内容	出材量計画（m ³ ）
人工林間伐 針葉樹	320
人工林間伐 広葉樹	30
天然林間伐 針葉樹	950
天然林間伐 広葉樹	100
合 計	1,400

5）危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。なお、平成27年度は湖畔市街地の危険木処理（3箇所）ならびに、10月上旬の低気圧・台風被害木処理を実施した。

事業費

1,447,000円（予算額 500,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業、八幡工業）

（2）人工林保育事業

1）植樹祭事業

植樹祭（500本植栽）に係る「苗木の購入」、「地拵え」、「下刈」を実施した。

事業費

369,000円（予算額 340,000円）

(請負先：(有)前田一步園林業)

2) 人工林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成23年度に植栽した人工林1.0haの下刈作業を実施した。

事業費 55,000円 (予算額 60,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3082-9 林小班

3) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林42.50haの間伐、30.33haの枝打ち、および伐採木(413m³)の搬出を実施した。

事業費 10,012,200円 (予算額10,900,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 間伐 : 3081-2、3082-4 の各林小班 (42.50ha)

間伐 : 3081-2 林小班 (30.33ha)

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然林の林分構成の充実を図るため、クロエゾマツの苗木(植栽本数9,000本、植栽面積10.03ha)の植栽を実施した。

事業費 4,901,000円 (予算額 5,740,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3093-3 林小班

2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成22年～26年度に植栽した誘導造林地の67.92haの下刈作業を実施した。

事業費 2,280,000円 (予算額 2,390,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3082-10、3095-6・16、3096-26、3104-3・10・11、3105-6・7、3106-6、3107-4・5、3108-4 の各林小班

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、過熟木、衰弱木、傷害木及びエゾシカによる食害木等151.09haの間伐、植栽予定地10.03haの更新伐、伐採木1,366m³の搬出、および既存作業道の補修・新規作業道開設7,075mを実施した。

事業費 47,458,600円 (予算額46,870,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

作業実施林小班 3090-3・4・6・7・13、3091-1・2・4・5、3092-1・7、3093-1・3・4・7 の各林小班

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。なお、平成27年度においては、業務の効率化を目指し森林保全事業にて現在紙の地図を利用している地番情報の電子データ化を行った。加えて、車両の入れ替え（三菱パジェロからスズキエスクード）に伴い、車両本体購入費用及び登録諸費用を支出した。

事業費

3,900,688円（予算額 4,184,729円）

(5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は24件、人数は325名であった。

おもな視察受け入れ内容

27年	5月12日	1日	エゾシカ対策〈（公社）生態系トラスト協会〉（1名）
27年	6月11日	1日	天然林施業〈東京農業大学（3，4年生）〉（20名）
27年	6月17日	1日	天然林施業〈札幌弁護士会環境委員会〉（10名）
27年	6月22日	1日	天然林施業〈JICA〉（11名）
27年	7月4日	1日	天然林施業〈苫東環境コモンズ〉（10名）
27年	7月8日	1日	エゾシカ対策〈兵庫県立工業技術センター他〉（5名）
27年	7月17日	1日	広葉樹施業〈釧路信用金庫〉（7名）
27年	9月7日	1日	天然林施業〈日本製紙釧路工場〉（3名）
27年	9月7日	1日	天然林施業〈東洋大学〉（20名）

27年	9月17日	1日	天然林施業〈JICA〉（16名）
27年	9月24日	1日	エゾシカ対策〈東京農大〉（17名）
27年	9月28日	1日	森林利活用〈東海特種製紙〉（2名）
27年	9月29日	1日	天然林施業〈中標津町教育委員会〉（20名）
27年	10月5日	1日	天然林施業〈本別町森林組合〉（10名）
27年	10月7日	1日	森林散策〈バンビクラブ（阿寒湖畔未就園児サークル）〉（14名）
27年	10月15日	1日	森林散策〈釧路市立マリモ幼稚園〉（35名）
27年	10月18日	1日	天然林施業〈大雪と石狩の自然を守る会〉（15名）
27年	10月21日	1日	エゾシカ対策〈釧路市立阿寒湖小学校〉（40名）
27年	10月31日	1日	天然林施業他〈いわみざわふるさと少年少女保全活動〉（22名）
27年	11月13日	1日	天然林施業他〈日本製紙釧路工場他〉（6名）
27年	11月20日	1日	天然林施業他〈JICA〉（18名）
28年	1月21日	1日	エゾシカ対策〈東京農大〉（7名）
28年	2月9日	1日	エゾシカ対策〈NPO法人エゾシカネット〉（4名）
28年	2月15日	1日	天然林施業他〈北海道教育大学釧路校〉（12名）

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守・管理及び景観の向上を目的に、空地の緑化事業やベンチなどの製作と設置を行った。

事業費 280,000円（予算額 700,000円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表2-1のとおり土地の貸付を行った。

なお、有償貸付の契約件数減については、個人契約2件の返地（敷地面積合計 119㎡）によるものである。

（表2-1） 土 地 貸 付 等 状 況 一 覧

契約区分	平成27年3月現在		平成28年3月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	207件	519,703㎡	205件	519,584㎡	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	19件	346,115㎡	19件	346,115㎡	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会他
計	226件	865,818㎡	224件	865,699㎡	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進等を本年度も継続して行った。

(1) 温泉供給施設の整備

1) 揚湯ポンプの拡充事業

河田2号源泉用の予備水中ポンプ（11kw×1台）等を購入し、温泉の安定供給確保に努めた。

事業費 2,609,000円（予算額 2,750,000円）

2) 温泉計量器の交換整備事業

温泉計量器（流量計）を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給と資源の節約に努めた。

事業費 530,000円（予算額 500,000円）

3) 源泉ピット（井戸元）整備事業

掘削時施工した源泉ピット（井戸元）が経年劣化により、ひび割れや損壊が見受けられることから、正次7号源泉及び、15号源泉にて補修工事を行い源泉の保護に努めた。

事業費 283,000円（予算額 300,000円）

4) 温泉供給施設の整備事業

15号源泉において、供給量の管理や耐久性の向上を目的に、塩ビ管のヘッダー（供給設備）をあらたにステンレス製のヘッダーに改良した。それに伴い、ヘッダーの格納施設を新築した。

事業費 3,875,000円（予算額 4,200,000円）

5) インバーター整備事業

新2号源泉及びチップ川源泉においてインバーター補助計器盤のメンテナンスを実施し、温泉の安定供給に努めた。

事業費 481,000円（予算額 260,000円）

6) 温泉管理事業

平成27年度中に、環境省が定めている成分分析の有効期間10年を超える源泉があったことから、3源泉（チップ川源泉、新神社源泉、正次7号源泉）において温泉成分分析を実施した。

事業費 409,396円（予算額 420,000円）

(2) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成28年3月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、これら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(3) 温泉供給

前年度に引き続き、表3-1のとおり温泉供給を行った。

なお、供給本数の減は、中規模ホテルの営業休止に伴う１２本（１件）の返還によるものである。

(表３－１) 温 泉 供 給 状 況 一 覧

供給区分	平成 27 年 3 月現在		平成 28 年 3 月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	66 件	311 本	65 件	299 本	
無償供給	3 件	4 本	3 件	4 本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3 本		3 本	暖房等財団諸施設
計	69 件	318 本	68 件	306 本	

5. その他

ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託し行った。

事 業 費

１２０，０００円（予算額 １２０，０００円）